

H.28  
(2016年)

五月 (今月の掲示板)

真宗大谷派・願成寺

人間は、生きながら考え・考えながら生きる

人の世とは、梵語(インドの古語)で『ナラ(人)・カ  
(住む所)』と言ひ、ナラカを中国語で『奈落(地獄)』、  
梵語の『サハー』を娑婆(思い通りにならず・耐え忍ぶ  
苦の世界)と音写しました。この世は娑婆を此岸、三  
途の川(煩惱の水)の向こうを彼岸(極楽)浄土と言  
います。が、煩惱(我欲)の水が涸れると、娑婆と浄土  
は陸続きになり差は無くなります。『人間から湧き出  
る煩惱が此岸と彼岸を作り出す』と仏教は説きます。  
親鸞聖人の教えに従って暮らす人が居ます。人の  
体は全て食べ物(無数の生き物)の栄養素からできて  
おり、酸素・日光・雨水など自然の恵み(仏様からの頂  
きもの)により、今日まで生かされて来ました。朝・目  
が覚めると、『今日も命を頂いた、有り難いことです』  
と命の働きに合掌し・ヤル気が出る時は自分なりに  
努力し、その後は『仏様に全て御任せします』と、念仏  
申しながら日々生活する人が『念仏者』なのです。

主な参考資料

- (1) 松平実胤(講演筆録)『仏と成る道』月刊・在家仏教 2013年4月号、P.46〜67、在家仏教協会。
- (2) 田上太秀(講演筆録)『ここに幸あり』月刊・在家仏教 2015年9月号、P.12〜28、在家仏教協会。
- (3) 能岡 浄(著)『プラス思考の生き方を見つけよう』月刊『花すみれ』2002年1月号、大谷婦人会。